Let's go to SORAMPO

Vol. 105

そらんぽへ行こう

間 博物館・プラネタリウム (TEL 355-2700 FAX 355-2704)

銀河鉄道で夏の夜空を旅しよう

夏の夜空に広がる天の川を舞台とした、宮 沢賢治の有名な物語「銀河鉄道の夜」には、 さまざまな夏の星や星座が登場します。

物語の旅の中で最初に訪れたのは、はくち ょう座。天の川とクロスするように羽を広げ、 優雅に飛んでいるように見える星座です。 「アルビレオの観測所」として登場した二重 星は、はくちょう座のくちばしに当たる二つ の星で、望遠鏡で見ると青色と黄色の星が並 んで輝いています。宮沢賢治はこれを、宝石 のサファイアとトパーズに例えました。



©ステラナビゲータ12で作成

次に「鷲の停車場」として登場するのは、 わし座。さらに、「さそりの火」と称されたの は、天の川を下った先にあるさそり座の一等 星アンタレス。物語の中でみんなの幸いを願 ったサソリは、真っ赤な火のように夏の夜空 を照らしてくれています。

当館では8月12日に伊坂ダムで夏の星空 観望会を開催します。物語に出てくる星のほ か今年は月明かりがあり条件は悪いですが、 ペルセウス座流星群が見えるかもしれません。

BUNKAZAI SANPO



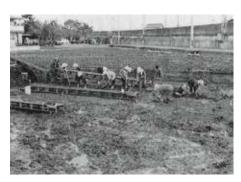
文化財さんぽ

問文化課(EL 354-8238 FAX 354-4873)

地下に眠る中川原・芝田の遺跡を 探訪する

近鉄湯の山線沿線にはいくつかの遺跡があ ることをご存じでしょうか。中川原駅の北東 には「宮の西遺跡」、市立病院の辺りには 「小判田遺跡」があります。古代から中世を 中心とした遺跡で、過去に実施した発掘調査 では、土器類や石器類のほか木製品が多く出 土しました。

遺跡を特徴づける発掘調査の成果の一つに、 木簡があります。出土した木簡は状態が良く、 墨で文字が書かれていることが確認できまし た。特に宮の西遺跡からは「柴田郷長右□[] と書かれた木簡が出土しており、「柴田郷」と



昭和63年「宮の西遺跡」の発掘調査(中川原)



宮の西遺跡

いう古代の伊勢国三重都の郷名が記されてい ます。この木簡からは、この地が「柴田郷」 の中心的な集落であった可能性が考えられる ほか、現在の地名「芝田」の由来であること も推測されます。

これまでの発掘調査では、集落の様子が分 かる建物跡などの遺構は発見されていません が、地下に眠る四日市の歴史に思いを巡らせ ながら、周辺を散策してみてはいかがでしょ うか。日常の見慣れた光景も、少し見え方が 変わってくるかもしれません。